

πλοῖον

プロイオン

知っておきたいキリスト教のことば (180)

舟 ふね

旧約聖書の中で、舟と聞いて思い浮かべるのは「ノアの箱舟」ではないでしょうか。創世記 6～9 章に出てくるこの物語は、神さまが人間を造ったことを後悔し、洪水を起こしたというものです。人間の中でノアだけが、神さまに従う無垢な人でした。そこで神さまはノアに命じ、箱舟を造らせて守ったという物語です。

福音書になると、漁船が出てきます。イエス様が伝道をはじめたカファルナウムはガリラヤ湖に面した漁師町だったこと、また最初に「わたしについて来なさい」と声を掛けた相手が漁師だったことなどが関係しています。ただ漁船といっても、「小舟」に近い大きさだったのかもしれませんが。

使徒言行録には、パウロが船を使ってローマに向かった記事が載せられています(使徒 27:6～)。この船には 276 名の乗員がいたということなので、かなり大きなものだったようです。

さて、教会はしばしば舟にたとえられます。奈良基督教会は、「三廊式バシリカ様式」という構造をしています。真ん中に身廊があり、両端にはそれぞれ側廊があります。その身廊を「nave(ネイヴ)」と呼ぶのですが、その語源はラテン語で船をあらわす「navis」だそうです。

キリスト教では初期から、舟は教会の象徴でした。確かに建物全体が、箱舟のようになっている礼拝堂は多くみられます。

わたしたちは教会という舟に乗り、イエス様と共に歩みます。しかしイエス様がいても、嵐は来ます。でもそのときに、イエス様を信じ、恐れる心が少しでも収まればと願います。

世の中の荒波の中を共に進む、教会はその「舟」であり続けたいと思います。

次回は「平地の説教」です。お楽しみに。



「ペトロとアンデレの召命」

マッテオ・ディ・ジョヴァンニ

(1430～1495年)

そのとき、湖に激しい嵐が起り、舟は波にのまれそうになった。イエスは眠っておられた。

(マタイによる福音書 8章 24節)

